

地理関連学会連合第6回総会議事録(案)

開催日時：2004年3月26日 13時～14時20分

開催場所：東京経済大学6号館7階中会議室

1. 2003年度活動報告

2003年度において連合が後援したシンポジウム等は下記の通りである。

富士学会 「富士学シンポジウム」 テーマ「活火山富士山と生活環境」2003年5月24日(土)
東京大学駒場キャンパス

富士学会 第1回研究発表会 2003年10月4日 富士常葉大学

富士学会 「第三回シンポジウム」 テーマ「富士の活性 富士の知性」2004年6月5日(土)
中欧大学駿河台記念会館

2. 日本学術会議の動向

野上議長より、地理学研連委員長の立場から、日本学術会議の再編成の概要について報告がなされた。

3. 国際地理学連合(IGU)および国際地理学連合グラスゴー大会(IGC)について

野上議長ならびに氷見山地理学研連委員により、次の報告がなされた。

IGC グラスゴー大会の展示会において、地理学研連が日本の地理学を世界に紹介するためのブースを設置する。このブースには、関係学会等のポスター、書籍、リーフレットなどを展示する。展示を希望する学会等は、氷見山地理学研連委員(IGC展示実行委員長)に4月末までに申し込んでほしい。

地理学研連所属の学会を紹介するためのカラー印刷になる冊子を作成し、配布する。これには地理関連学会連合の紹介も含めたい。各学会への割り当てページ数は、刷り上り2ページ。

Geographical digital data を画像化し、CDに焼いて配布する。

田邊運営委員(IGU副会長)より、次の報告がなされた。

グラスゴー大会でIGU役員・委員の改選が行われる。日本からの役員・委員就任は減少する見込みである。IGUへの拠出金に比べて日本からの役員・委員数は少なすぎる。若い研究者を積極的にIGCおよびIGU各コミッション会合に誘うなど、もっと積極的に国際的な知的交流を深める努力が必要である。

4. 2004年度～2005年度役員の選出

2004～05年度役員として、議長、副議長を次のように決定した。

議長 野上(地理情報システム学会、または東京地学協会選出予定)

副議長 村山(日本地理学会)

なお、運営加入学会は、できるだけ4月末までに運営委員を選出し、連合事務局に報告することとした。

5. 「学習指導要領」改訂に対する取り組みについて(日本地理学会からの動議)

谷内日本地理学会理事長から、次の提案がなされ、異議なく了承された。

日本地理学会は、「学習指導要領」改訂に向けて、中等教育における地理教育の重要性を文部科学省に対して訴えるための行動をとる予定でいる。地理関連学会連合および加盟各学会の協力を得たい。

なお、具体的な文案が出来上がり、そこに地理関連学会連合だけでなく加盟学会の名称を書き込む場合には、運営加入と賛同加入とに関わらず、事前に各加盟学会に文案を送付し、了承を取ることとなった。

6 . 国際地理学連合都市地理研究グループ (The IGU Commission on Monitoring Cities of Tomorrow) 2005 年 8 月東京カンファランスを後援することが決定された。

出席者

【運営加入学会】

中田 高(地理科学学会、広島大)、野上道男(地理情報システム学会、日本大学)、田邊 裕((社)東京地学協会、帝京大)、阿部 隆(東北地理学会、日本女子大)、山本健兒(日本地理学会、法政大)、西脇保幸(日本地理教育学会、横浜国立大)

【賛同加入学会】

松原宏(経済地理学会、東京大学)、千田稔(人文地理学会、国際日本文化研究センター)、谷川尚哉(地理教育研究会、中央学院大学)、松岡勝博(日本環境共生学会&日本地域学会、那須大学)、細井将右(日本国際地図学会、創価大学)、鈴木裕一(日本水文科学学会、立正大学)、大友幸子(日本地質学会、山形大学)、山川修治(日本農業気象学会、日本大学)、森和紀(日本陸水学会、日本大学)

【オブザーバー】

氷見山 幸夫(日本学術会議地理学研連・北海道教育大)
谷内 達(日本地理学会・東京大学)
次期運営委員(日本地理学会選出): 村山 祐司(筑波大学)

欠席:

【運営加入学会】

日本沙漠学会、日本生気象学会、日本地形学連合、日本土壌肥料学会

【賛同加入学会】

水文・水資源学会、(社)日本雪氷学会、日本地下水学会、(社)日本都市計画学会、歴史地理学会